

2017年（平成29年） 6月2日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

5/18～5/24のNYMEX・WTIは49.35～51.47ドルで推移、50ドル台を回復した。

5月25日は、ウイーンで第172回石油輸出国機構(OPEC)総会、第2回OPEC・OPEC非加盟国閣僚会議が開催され、協調減産日量約180万バレルの7月以降の9ヶ月間延長が合意されたが、合意内容が事前の想定内で減産幅拡大など踏み込んだ措置がなかったことから、利益確定売りや失望売りが相次ぎ大幅続落、5営業日振りに50ドルを割り込んだ。7月限の終値は前日比2.46ドル安の48.90ドルだった。

週末26日は、ペーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が722基(前週比2基増、19週連続増加)との発表やドル高・ユーロ安による原油先物の割高感から売りが先行したが、安値買いや協調減産延長への評価もあり、3日振りに反発した。6月限の終値は前日比0.90ドル高の49.80ドルだった。

連休明け30日は、前日メモリアルデーからのドライブシーズン入りにも拘わらず、先週末の米国稼働リグの増加等供給過剰感から、反落した。7月限の終値は前日比0.14ドル安の49.66ドルだった。

31日は、同日夕刻と翌日に予定されている米国官民の在庫週報で原油・石油製品とも取り崩しが予想されているにも関わらず、減産対象から免除されているリビアが増産しているとの報道から、売られ、続落した。7月限の終値は前日比1.34ドル安の48.32ドルだった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(7月渡し)は、前週51.00～53.00ドルで推移し、50ドル台を回復した。5月25日は53.10ドル、26日は49.90ドル、29日は50.90ド

ル、30日は50.90ドル、31日は50.20ドルで推移した。

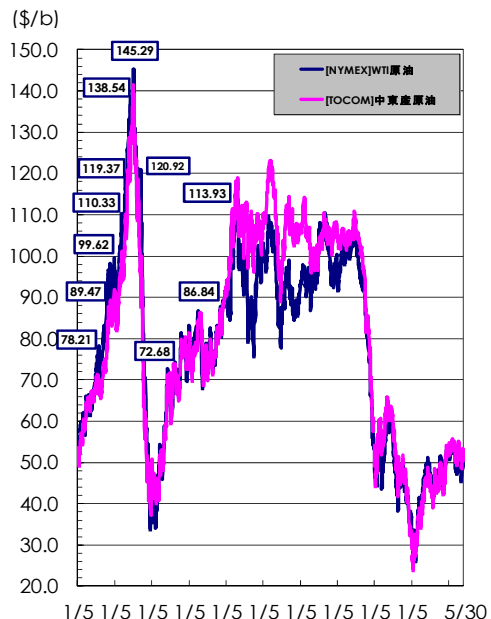
為替は、前週111.06～111.82円と狭い範囲で推移した。5月25日は111.66円、26日は111.79円、29日は111.34円、30日は111.10円、31日は110.96円で推移した。

財務省が30日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、5月上旬の原油輸入平均CIF価格は、37,364円/klとなり、前旬を205円下回った。ドル建てでは54.19ドルで前旬比0.12ドル安。為替レートは1ドル/109.61円。

主要元売会社の6月第1週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから1.5円の値上げに分かれた。原油価格は値上がりし、為替レートの円高が相殺する形で、原油調達コストはやや値上がりした。

そのような中で、5月22日時点の小売価格は、ガソリンが0.5円値下がりの131.7円、軽油は0.4円値下がりの110.8円、灯油は0.2円値下がりの76.9円だった。ガソリン、軽油、灯油いずれも6週連続の値下がりだった。この週(5月第5週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は据え置きから1.0円の値上げだった。

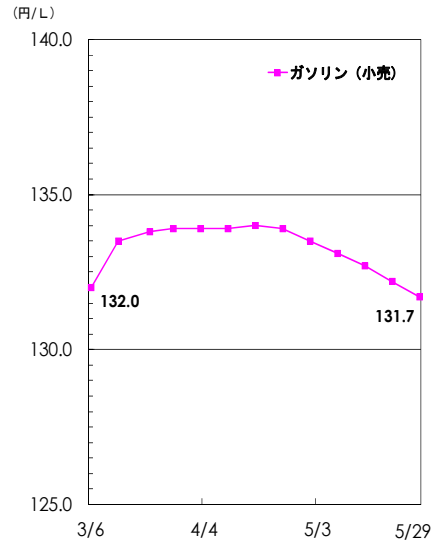
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/21 ~ 5/27	3,169 ▼ -172	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	80.9 ▼ -4.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/27	12,701 ▼ -539	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	5/29	51.18 ▼ -1.88	▲ 5.4
	WTI原油 (NYMEX) (\$/ bbl)	5/30	49.66 ▼ -1.07	▲ 0.6
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	5月上旬	54.19 ▼ -0.12	▲ 13.51
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	37,364 ▼ -205	▲ 9,490
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.61 ▲ 0.37	▼ -0.69
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/29	112.34 ▲ 0.20	▼ -0.61



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/21 ~ 5/27	1,042 ▲36	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,014 ▲56	▼ -	
	輸出	"	21 ▲21	▼ -	
	在庫	5/27	1,896 ▲7	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/23 ~ 5/29	48.5 ▲1.0	▲ 7.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/23 ~ 5/29	50.5 ▲1.4	▲ 4.5
		(TOCOM/中部)	5/29	49.2 ▼-0.7	▲ 4.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/29	131.7 ▼-0.5	▲ 11.8	

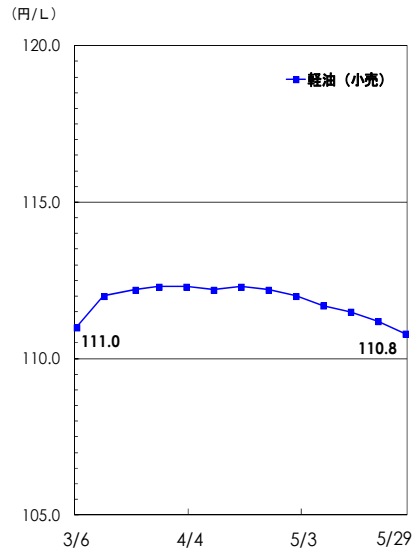
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

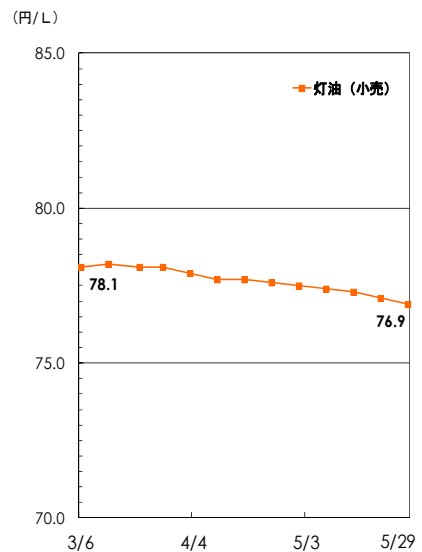
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/21 ~ 5/27	739 ▼-37	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	644 ▼-16	▼ -	
	輸出	"	138 ▼-28	▼ -	
	在庫	5/27	1,581 ▼-44	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/23 ~ 5/29	47.7 ➡ 0.0	▲ 10.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/23 ~ 5/29	48.0 ➡ 0.0	▲ 7.4
		(TOCOM/中部)	5/29	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/29	110.8 ▼-0.4	▲ 10.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/21 ~ 5/27	227 ▲23	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	160 ▲19	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	5/27	1,314 ▲67	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/23 ~ 5/29	47.1 ▲0.5	▲ 9.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/23 ~ 5/29	47.2 ▲0.6	▲ 6.6
		(TOCOM/中部)	5/29	47.5 ▲0.8	▲ 8.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/29	76.9 ▼-0.2	▲ 14.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

5月31日のNYMEX市場WTI原油は、協調減産の対象から免除されているリビアで、技術的理由から生産が制限されていた、同国最大油田であるシャララ油田の生産が回復しつつあることが報じられ、売りが先行し、続落した。ただ、月曜がメモリアルデーであったため、発表が同日夕刻と翌日になった米国官民の在庫週報が、原油(250万バレル減)・石油製品(ガソリン110万バレル減・中間留分80万バレル減)と、ともに取り崩しが予想されることが、下げ幅を抑える形となった。

EIAによると、5月29日時点のガソリンの小売価格は前週比0.7セント値上がりの1ガロン2.406ドル(71.3円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比3.2セント値上がりの2.571ドル(76.2円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは6週振りの値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、5月21日～5月27日に休止したトッパー能力は62.3万バレル/日で、前週に対して23.9万バレル/日の増加(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は316.9万klと、前週に比べ17.2万kl減少。前年に対しては6.4万klの減少。トッパー稼働率は80.9%と前週に対して4.4ポイントの減少、前年に対しては4.8ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.6%増、ジェット/8.5%減、灯油/11.4%増、軽油/4.8%減、A重油/5.5%減、C重油/6.9%減。今週のC重油の輸入は0.4万kl(前週比1.8万kl減)。軽油の輸出は13.8万kl(前週比2.8万kl減)。

出荷(販売量)は、前週比では軽油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではジェット、灯油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は101.4万kl(対前週5.8%増)と2週連続で前週比で増加、2週振りに前年比で減少となり、3週振りで100万klを超えた。

ジェット16.4万kl(対前週53.3%増)、灯油16.0万kl(対前週13.6%増)、軽油64.4万kl(対前週2.5%減)、A重油20.7万kl(対前週0.6%増)、C重油16.1万kl(対前週42.2%減)。

(単位:千KL)

	今週 (5/21 ~ 5/27)	前週 (5/14 ~ 5/20)	前週比	
ガソリン	1,014	958	▲ 56	(6%)
ジェット燃料	164	107	▲ 57	(53%)
灯油	160	141	▲ 19	(13%)
軽油	644	660	▼ -16	(-2%)
A重油	207	206	▲ 1	(0%)
C重油	161	278	▼ -117	(-42%)
合計	2,350	2,350	▶ 0	(0%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月27日時点の在庫は、ガソリン、灯油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、灯油、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは189.6万kl、前週差0.7万kl増。前年に対しては7.5万kl多い。

灯油は131.4万kl、前週差6.7万kl増。前年に対しては29.0万kl少ない。

軽油は158.1万kl、前週差4.4万kl減。前年に対しては3.8万kl少ない。

A重油は80.1万kl、前週差1.3万kl減。前年に対しては1.9万kl多い。

C重油は207.2万kl、前週差2.8万kl増。前年に対しては5.2万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (5/27)	前週 (5/20)	前週比	
ガソリン	1,896	1,889	▲ 7	(0%)
ジェット燃料	1,086	1,115	▼ -29	(-3%)
灯油	1,314	1,247	▲ 67	(5%)
軽油	1,581	1,625	▼ -44	(-3%)
A重油	801	814	▼ -13	(-2%)
C重油	2,072	2,044	▲ 28	(1%)
合計	8,750	8,734	▲ 16	(0.2%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月23日から29日までの原油コストは、原油価格は値上がり、為替レートは円高でこれをやや相殺したが、原油コストはわずかな値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン101～102円台でやや値上がり、軽油47～49円台で軟化、灯油46～47円台でやや値上がりして推移した。

海上スポット価格は、ガソリン103～104円台で堅調、軽油47～49円台でやや値上がり、灯油45～46円台でやや値上がりして推移した。

先物価格は、ガソリン103～105円台で軟化、軽油48円台で横ばい、灯油46～47円台でやや軟化した。

元売の卸価格は、ガソリンは0.5円から1.5円の値上げに分かれ、灯油は据え置きから0.5円の値上げに分かれ、軽油は据え置きから1.0円の値上げに分かれた。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストはやや値上がりし、製品スポット市況は、概ね値上がりした。週間のガソリン販売量は、2週連続で増加し、3週振りに100万klを上まわった。

6月第1週(6月1日～7日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5月23日～29日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.0円の値上がり、軽油は横ばい、灯油は0.5円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.8円の値上がり、軽油は1.5円の値上がり、灯油は0.4円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.4円の値上がり、軽油が横ばい、灯油は0.6円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替はやや円高で、原油コストはやや値上がりとなった。

6月第1週の大手元売の卸価格は、据え置きから1.5円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (5/23～5/29)	前週 (5/16～5/22)	前週比
スポット価格	レギュラー	48.5	47.5	▲ 1.0
	灯油	47.1	46.6	▲ 0.5
	軽油	47.7	47.7	▶ 0.0
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値][平均]		今週 (5/23～5/29)	前週 (5/16～5/22)	前週比
先物価格	レギュラー	50.5	49.1	▲ 1.4
	灯油	47.2	46.6	▲ 0.6
	軽油	48.0	48.0	▶ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/23～5/29実績値)		(単位: 円/%)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 1.0	▲ 1.4	▲ 1.2	
灯油	▲ 0.5	▲ 0.6	▲ 0.6	
軽油	▶ 0.0	▶ 0.0	▶ 0.0	
A重油	▼ -0.1			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

5月29日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円値下がりの131.7円、軽油も前週比0.4円値下がりの110.8円、灯油は前週比0.2円値下がりの76.9円だった。ガソリン、軽油、灯油ともに6週連続の値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは3県、横ばいは1県、値下がり43都道府県であった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、岡山県の125.9円(前週比0.7円安)、次が埼玉県126.5円(同0.3円安)だった。最高値は長崎県の140.3円(同0.5円高)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比0.5円高の長崎県(140.3円)、最も値下がりした県は同1.2円安の福島県(131.0円)と和歌山県

(132.6円)、横ばいが高知県の1県だった。

原油コストは値上がりし、元売りの卸価格も据え置きから1.0円の値上げだったが、6週連続でガソリン小売価格は値下がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートは円高がこれを相殺する形で、原油コストはやや値上がりした。元売会社の卸価格は、据え置きから1.5円の値上げだった。次週(6月5日)のガソリンと灯油の小売価格は、小幅な値上がり予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			
		今週 (5/29)	前週 (5/22)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	131.7	132.2	▼ -0.5	08/8/4 185.1
	灯油	76.9	77.1	▼ -0.2	08/8/11 132.1
	軽油	110.8	111.2	▼ -0.4	08/8/4 167.4

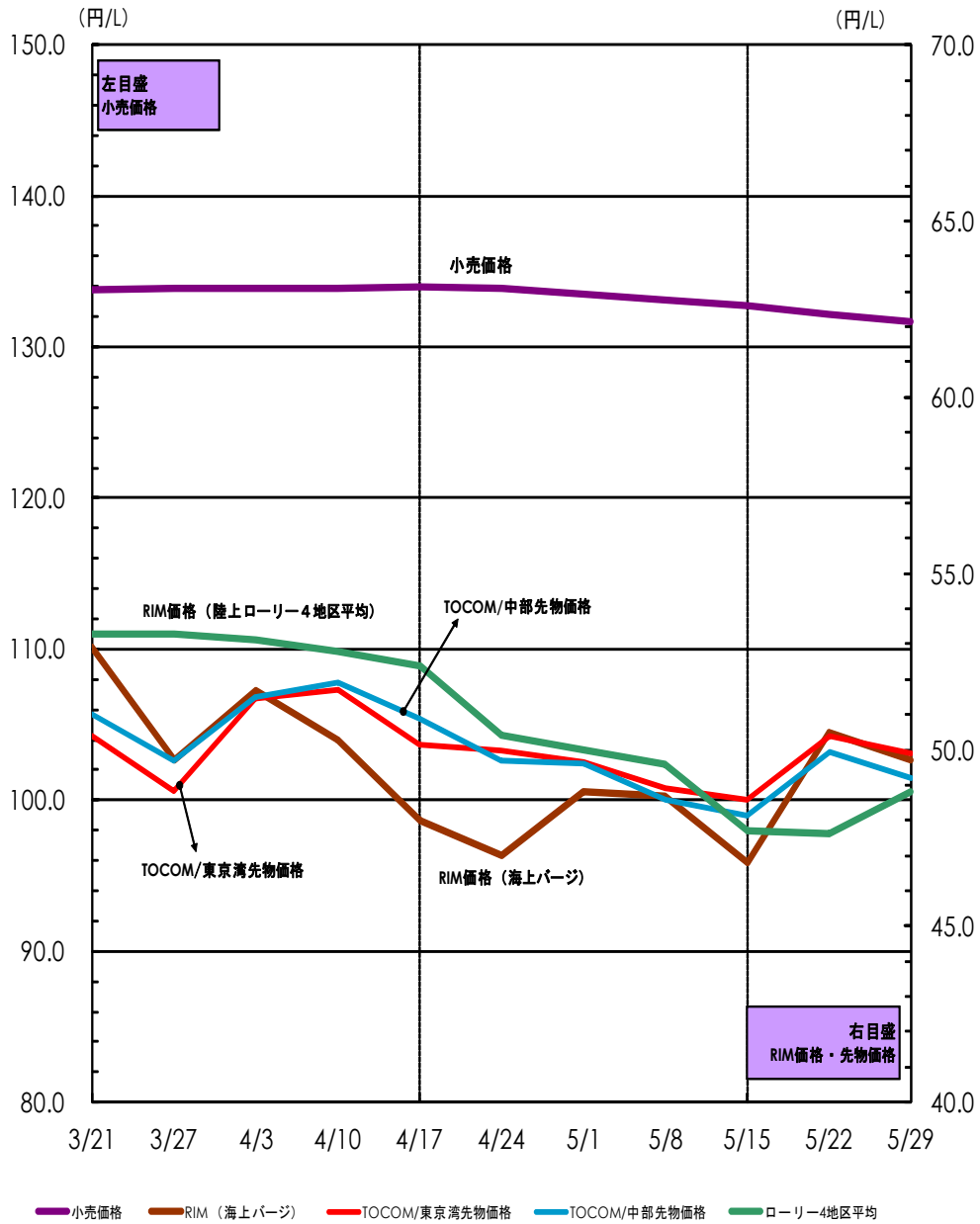
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2017/3/21 ~ 2017/5/29)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2017第9号)の公表は、6/9(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。